

#### 4. 住民参加による水質調査

##### (1) 今後の河川（湖沼）水質管理の指標

###### 1) 今後の河川（湖沼）水質管理の指標とは

国土交通省では、河川水質管理において、住民や利水者の河川水質・河川環境に対して多様化するニーズに応えるため、平成17年3月に「今後の河川水質管理の指標について（案）」を発表した。この「河川水質管理の指標」（今後の河川水質管理の指標）は、住民との協働による測定項目及び河川等管理者による測定項目からなり、平成17年度に全国規模で住民と協働で行う調査を試行し、平成18年より全ての一級河川を対象に本格的に実施している<sup>注12</sup>。

さらに、湖沼についても、平成22年3月に「今後の湖沼水質管理の指標について(案)」をとりまとめ、これに基づく調査が、同年より全国の湖沼を対象に実施されている。

これまでは、通称である「**新しい水質指標**」が使用されてきたが、指標(案)設定から、10年以上が経過し、「新しい」という表現が現状にそぐわないことから、以降では「**今後の河川(または湖沼)水質管理の指標**」として表記することになっている。

今後の河川水質管理の指標のうち、「人と河川の豊かなふれあいの確保」に関する調査では「ゴミの量」や「水のおいしさ」などを実際に体感することで評価する項目が含まれていることから、概要版では「感覚的な水質指標」として結果を記載している。

<sup>注12</sup> 平成21年3月に「今後の河川水質管理の指標について(案)」を一部改訂し、平成21年度調査より適用している。

[http://www.mlit.go.jp/river/shishin\\_guideline/kankyo/suishitsukanri/shihyou.pdf](http://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kankyo/suishitsukanri/shihyou.pdf)

今後の河川水質管理の指標とは、人と河川のふれあいや生態系への関心など、多様な視点で河川が捉えられるようになってきている現在の状況を鑑み、河川をBODだけでなく多様な視点で評価できるように検討された指標である。評価の視点は以下の4つ。

① 「人と河川の豊かなふれあいの確保」

水質に関係する分かりやすい指標(ゴミの量、透視度、川底の感触、水の臭い、糞便性大腸菌群数)により評価

② 「豊かな生態系の確保」

水生生物の生息・生育・繁殖に関係する指標(呼吸に支障が無いこと、毒性が無いこと、生物が生息していること)により評価

③ 「利用しやすい水質の確保」

上水利用・農業用水・工業用水・水産用水の利用に関係する指標(トリハメタン生成能、2-MIB、ジオスミン、 $\text{NH}_4\text{-N}$ )により評価

④ 「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」

下流部の富栄養化や閉鎖性水域(ダム・湖沼・湾)の富栄養化への影響に関係する指標(T-N、T-P)により評価

「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」以外の視点について評価項目と評価レベルが設定されている<sup>注13</sup>。評価項目と評価レベルは表-20～表-22に示すとおりである。また、4つの視点のうち「人と河川の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」では、調査の一部を住民と河川管理者との協働により実施しており、普段親しんでいる身近な川で、ゴミの量や水のおいなどを実際に体感することで評価している。

住民との協働による水質調査は、住民の川に対する意識の向上(情報提供を含む)、河川水質の情報収集、住民の主体的な行動を引き出すことなどにより、川の改善を目指すことをねらいとしている。

<sup>注13</sup> 一般的に滞留水域の水質と滞留水域に流入する河川の水質は異なり、現状の知見では下流域への影響を与える河川水質濃度を評価することは困難であることから、「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」の視点では、評価項目や評価レベルは定めていない。

表-20 「人と河川の豊かなふれあいの確保」の評価項目と評価レベル

(赤枠内は住民と協働調査)

ランク	説明	ランクのイメージ	評価項目と評価レベル				地域特性項目 当該河川・地点の特性や地域住民のニーズに応じて独自に設定
			全国共通項目				
			ゴミの量	透視度 (cm)	川底の感触	水のおい	糞便性大腸菌群数 (個/100mL)
A	顔を川の水につけやすい (泳ぎたいと思うきれいな川)		川の中や水際にゴミは見あたらないまたは、ゴミはあるが全く気にならない	100以上	快適である		100以下
B	川の中に入って遊びやすい		川の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる	70以上	不快感がない	不快でない	1000以下
C	川の中には入れないが、川に近づくことができる		川の中や水際にゴミがあって不快である	30以上	不快である	水に鼻を近づけると不快な臭いを感じる	1000を超えるもの
D	川の水に魅力がなく、川に近づきにくい		川の中や水際にゴミがあってとても不快である	30未満		水に鼻を近づけるととても不快な臭いを感じる	

表-21 「豊かな生態系の確保」の評価項目と評価レベル

(赤枠内は住民と協働調査)

ランク	説明	評価項目と評価レベル			地域特性項目 当該河川・地点の特性や地域住民のニーズに応じて独自に設定
		全国共通項目			
		DO(mg/L)	NH <sub>4</sub> -N(mg/L)	水生生物の生息	
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7以上	0.2以下	I. きれいな水 ・カワゲラ ・ナガレトビケラ等	
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5以上	0.5以下	II. 少しきたない水 ・コガタシマトビケラ ・オオシマトビケラ等	
C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない	3以上	2.0以下	III. きたない水 ・ミズムシ ・ミズカマキリ等	
D	生物が生息・生育・繁殖しにくい	3未満	2.0を超えるもの	IV. 大変きたない水 ・セスジユスリカ ・チョウバエ等	

表-22 「利用しやすい水質の確保」の評価項目と評価レベル

ランク	説明	評価項目と評価レベル				地域特性項目 当該河川・地点の特性や地域住民のニーズに応じて独自に設定
		全国共通項目				
		安全性	快適性	維持管理性		
		トリハロメタン生成能 (μg/L)	2-MIB (ng/L)	ジオスミン (ng/L)	NH <sub>4</sub> -N (mg/L)	
A	より利用しやすい	100以下	5以下	10以下	0.1以下	
B	利用しやすい		20以下	20以下	0.3以下	
C	利用するためには高度な処理が必要	100を超えるもの	20を超えるもの	20を超えるもの	0.3を超えるもの	

今後の湖沼水質管理の指標とは、人と湖沼のふれあいや生態系への関心など、多様化する湖沼の課題に対応した湖沼水質管理を実施するために多様な視点を踏まえ、湖沼をCODなどの環境基準だけでなく多様な視点で評価できるように検討された指標である。評価の視点は以下の4つ。

- ① 「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」  
水質に関係する分かりやすい指標(ゴミの量、透視度、湖底の感触、水の臭い、アオコ発生、糞便性大腸菌群数)により評価
- ② 「豊かな生態系の確保」  
水生生物の生息・生育・繁殖に関係する指標(呼吸に支障が無いこと、毒性が無いこと、生物が生息していること)により評価
- ③ 「利用しやすい水質の確保」  
上水利用に関係する指標(トリハロメタン生成能、2-MIB、ジオスミン、NH<sub>4</sub>-N)により評価
- ④ 「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」  
下流部の富栄養化や閉鎖性水域(ダム・湖沼・湾)の富栄養化への影響に関係する指標(T-N、T-P)により評価

「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」以外の視点について評価項目と評価レベルが設定されている<sup>注14</sup>。評価項目と評価レベルは表-23～表-25に示すとおりである。また、4つの視点のうち「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」では、調査の一部を住民と河川管理者との協働により実施しており、普段親しんでいる身近な湖沼で、ゴミの量や水のおいなどを実際に体感することで評価している。

住民との協働による水質調査は、住民の湖沼に対する意識の向上(情報提供を含む)、湖沼水質の情報収集、住民の主体的な行動を引き出すことなどにより、湖沼の改善を目指すことをねらいとしている。

---

注14 「利用しやすい水質の確保」は、水道水源としての利用しやすさを評価する指標項目であることから、主に上水道取水がある水域を調査対象範囲としている。

表-23 「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」の評価項目と評価レベル  
 (赤枠内は住民と協働調査)

ランク	説明	ランクのイメージ	評価項目と評価レベル							
			全国共通項目					地域特性項目		
			ゴミの量	透視度 (cm)	湖底の感触	水におい	アオコ発生	糞便性大腸菌群数 (個/100mL)		
A	顔を湖沼の水につけやすい		湖沼の中や水際にゴミは見あたらないまたは、ゴミはあるが全く気にならない	50以上	快適である		不快でない	アオコは確認できない	100以下	当該湖沼・地点の特性や地域住民のニーズに応じて独自に設定 ・住民と共に独自に設定 ・文献等から設定
B	湖沼の中に入って遊びやすい		湖沼の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる	25以上	不快感が無い		肉眼では水面にアオコが確認できないが、水をくんで肉眼でよく見ると確認できる	1000以下		
C	湖沼の中には入れないが、湖沼に近づくことができる		湖沼の中や水際にゴミがあつて不快である	25未満	不快である	水に鼻を近づけて不快なおいを感じる	アオコがうっすらと筋状に発生していて、水面にわずかに散らばり肉眼で確認できる	1000を超えるもの		
D	湖沼の水に魅力がなく、湖沼に近づきにくい		湖沼の中や水際にゴミがあつてとても不快である			水に鼻を近づけてとても不快なおいを感じる	アオコが湖面や湖岸の表面を広く覆い、かたまりもできている			

表-24 「豊かな生態系の確保」の評価項目と評価レベル  
 (赤枠内は住民と協働調査)

ランク	説明	評価項目と評価レベル			地域特性項目
		全国共通項目		生物の生息 (各湖沼で設定)	
		底層DO (mg/L)	NH <sub>4</sub> -N (mg/L)		
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7以上	0.2以下	独自の評価レベル	当該湖沼・地点の特性や地域住民のニーズに応じて独自に設定 ・住民と共に独自に設定 ・文献等から設定
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5以上	0.5以下	独自の評価レベル	
C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない	3以上	2.0以下	独自の評価レベル	
D	生物が生息・生育・繁殖しにくい	3未満	2.0を超えるもの	独自の評価レベル	

表-25 「利用しやすい水質の確保」の評価項目と評価レベル

ランク	説明	評価項目と評価レベル				地域特性項目	
		全国共通項目			NH <sub>4</sub> -N (mg/L)		
		安全性	快適性				維持管理性
		トリハロメタン生成能 (μg/L)	2-MIB (ng/L)	ジオスミン (ng/L)			
A	より利用しやすい	100以下	5以下	10以下	0.1以下	当該湖沼・地点の特性や地域住民のニーズに応じて独自に設定 文献等から設定	
B	利用しやすい		20以下	20以下	0.3以下		
C	利用するためには高度な処理が必要	100を超えるもの	20を超えるもの	20を超えるもの	0.3を超えるもの		

## 2) 実施水系・地点数

「人と河川の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」「利用しやすい水質の確保」の平成30年の調査実施状況を表-26に示す。

「人と河川の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」では、調査を実施した水系のうち、ほとんどの水系で住民との協働調査を実施している。住民との協働調査を実施している調査地点数は、「人と河川の豊かなふれあいの確保」では181地点(全国280地点)、「豊かな生態系の確保」では158地点(全国239地点)である。

「利用しやすい水質の確保」では、該当する地点に限られるため<sup>注15</sup>、水系数・地点数ともに「人と河川の豊かなふれあいの確保」や「豊かな生態系の確保」よりも少ないが、全国113地点で実施された。

表-26 調査を実施した水系数と地点数

地整局 開発局	水系数	人と河川の豊かな ふれあいの確保		豊かな生態系の確保		利用しやすい 水質の確保	
		水系数	地点数	水系数	地点数	水系数	地点数
北海道	13	13 (12)	29 (21)	13 (12)	25 (18)	6	12
東北	12	7 (6)	16 (13)	7 (6)	17 (13)	3	7
関東	8	7 (3)	48 (13)	5 (2)	34 (11)	6	25
北陸	12	11 (4)	15 (4)	11 (4)	15 (4)	4	6
中部	13	11 (7)	48 (26)	10 (7)	39 (25)	8	16
近畿	10	6 (6)	22 (18)	6 (5)	21 (16)	4	20
中国	13	10 (7)	33 (25)	8 (6)	18 (12)	2	2
四国	8	5 (5)	12 (12)	5 (5)	16 (12)	3	6
九州	20	20 (19)	57 (49)	20 (19)	54 (47)	14	19
全国	109	90 (69)	280 (181)	85 (66)	239 (158)	50	113

※ ( ) 内は、住民と協働して調査を実施した水系数と地点数と示す。

注15 「利用しやすい水質の確保」は、水道水源としての利用しやすさを評価する指標項目であることから、主に上水道取水がある水域を調査対象範囲としている。

「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」「利用しやすい水質の確保」の平成30年の調査実施状況を表-27に示す。

「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」では、調査を実施した調査地点のうち、住民との協働調査を実施している調査地点数は、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」では8地点(全国16地点)、「豊かな生態系の確保」では7地点(全国13地点)である。

「利用しやすい水質の確保」では、該当する地点に限られるため、水系数・地点数ともに「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」や「豊かな生態系の確保」よりも少なく全国8地点で実施された。

表-27 調査を実施した湖沼数と地点数

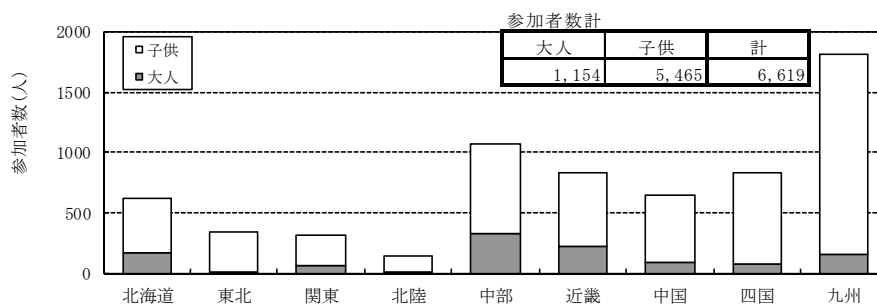
地整局 開発局	人と河川の豊かな ふれあいの確保		豊かな生態系の確保		利用しやすい 水質の確保	
	湖沼数	地点数	湖沼数	地点数	湖沼数	地点数
北海道	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0	0
東北	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1	1
関東	1 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	1	5
北陸	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0	0
中部	1 (1)	5 (5)	1 (1)	5 (5)	0	0
近畿	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0	0
中国	1 (1)	3 (1)	0 (0)	0 (0)	0	0
四国	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0	0
九州	2 (1)	3 (1)	3 (1)	5 (1)	1	2
全国	7 (4)	16 (8)	7 (3)	13 (7)	3	8

※ ( ) 内は、住民と協働して調査を実施した湖沼数と地点数を示す。

## 3) 参加者数

住民との協働による測定を実施する「人と河川の豊かなふれあいの確保」の視点による調査では6,619人、「豊かな生態系の確保」の視点による調査では5,893人の住民の参加を得て実施した。どの地方でも子供(15歳以下)の割合が多かった(図-21)。

【人と河川の豊かなふれあいの確保】



【豊かな生態系の確保】

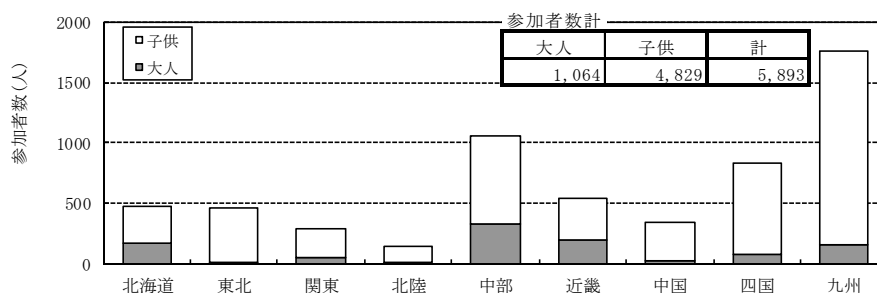


図-21 調査に参加した住民の数(延べ人数)※

※例えば、1人が2つの地点を調査した場合は、2人として集計している。

「人と河川の豊かなふれあいの確保」の調査にあたって住民参加が多かった地点は、表-28のとおりである。

表-28 参加者数が特に多かった調査地点

順位	都道府県	河川名(水系名)/調査地点	参加者数
1	愛媛県	重信川(重信川水系)/中川原橋	369
2	大分県	乙津川(大野川水系)/水辺の楽校	205
3	大阪府	大和川(大和川水系)/河内橋	155
4	佐賀県	六角川(六角川水系)/溝ノ上	146
5	北海道	常呂川(常呂川水系)/若松橋	134

※表中の参加者数は、年間通した延べ人数。年間に複数回の調査を実施した調査地点がある。



第二章 河川の水質現況  
 4. 住民参加による水質調査  
 (1) 今後の河川水質管理の指標

住民との協働による測定を実施する「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」の視点による調査では216人、「豊かな生態系の確保」の視点による調査では205人の住民に参加を得て実施した(図-22)。

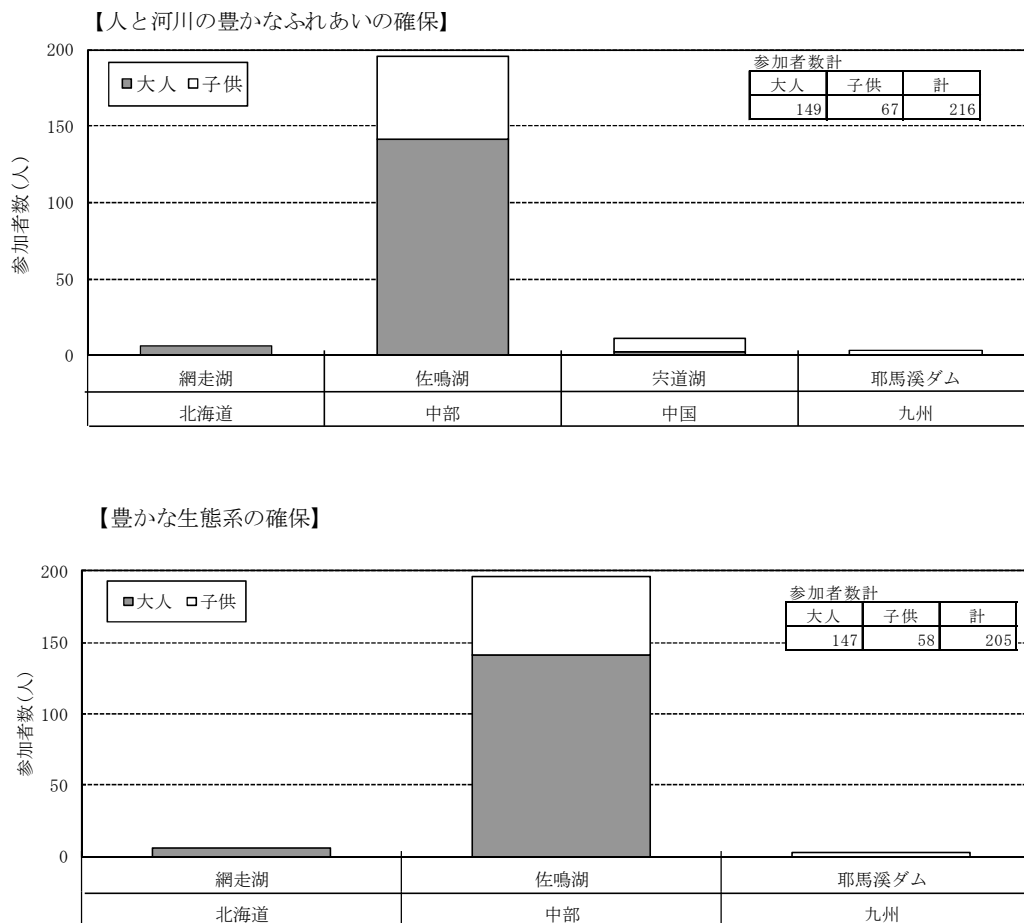


図-22 調査に参加した住民の数(延べ人数)

※例えば、1人が2つの地点を調査した場合は、2人として集計している。

## 4) 調査結果

平成30年に実施した今後の河川水質管理の指標による調査結果を基に、「人と河川の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」「利用しやすい水質の確保」の3つの視点ごとに、全国の調査地点の総合的な評価<sup>注16</sup>を行い、年間の総合評価ランクを全国マップ(図-23(1)～図-23(3))に示した。合わせて、地方別に全地点数に占める各評価ランクの地点数の割合を示す。

年間の総合評価ランクが最も高いAランク(青丸)の地点は、表-29に示すように、「人と河川の豊かなふれあいの確保」の視点については約25%(71地点/280地点)、「豊かな生態系の確保」の視点については約69%(165地点/239地点)、「利用しやすい水質の確保」の視点については約75%(85地点/113地点)となった。

一方、年間の総合評価ランクが最も低いDランク(赤丸)の地点は、「人と河川の豊かなふれあいの確保」の視点については約4%(11地点/280地点)、「豊かな生態系の確保」の視点については約1%(3地点/239地点)となった。また、「利用しやすい水質の確保」では評価ランクが最も低いCランク(黄色丸)の地点は、約14%(16地点/113地点)となった。

表-29 今後の河川水質管理の指標による年間の総合評価ランク別の地点数

	人と河川の豊かなふれあい		豊かな生態系		利用しやすい水質	
	地点数	割合	地点数	割合	地点数	割合
Aランク	71 (49)	25%	165 (107)	69%	85	75%
Bランク	112 (73)	40%	60 (42)	25%	12	11%
Cランク	86 (53)	31%	11 (6)	5%	16	14%
Dランク	11 (6)	4%	3 (3)	1%		
計	280 (181)	100%	239 (158)	100%	113	100%

※ () 内は、住民と協働で調査した地点数。四捨五入による端数処理のため内訳の合計が100%にならないことがある。

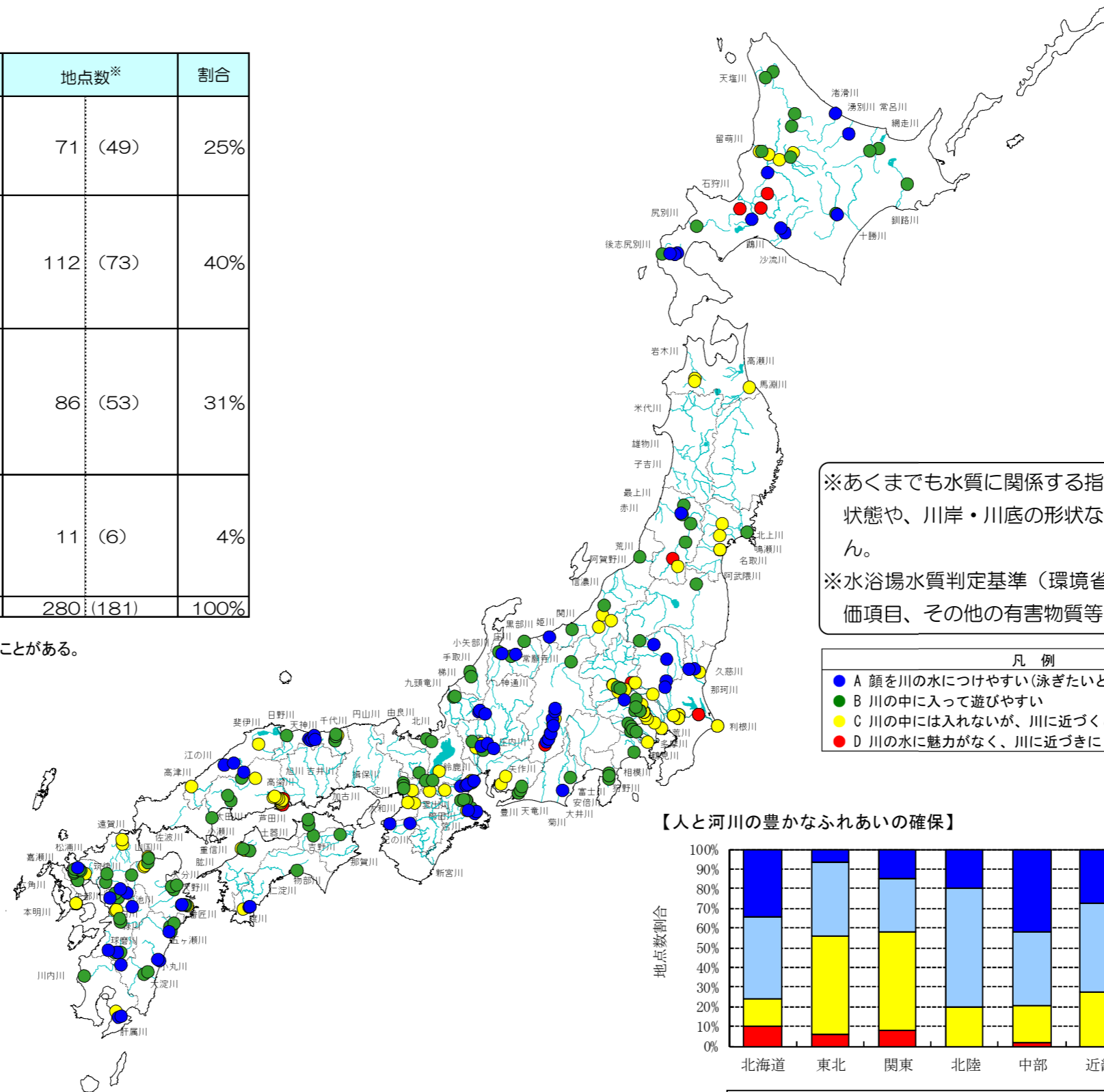
「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」の視点では、評価項目、評価ランク及び評価レベルを定めていないことからT-N、T-Pの年間の地点平均値の濃度範囲を図-24に示す。

<sup>注16</sup> 評価項目ごとにA～Dランクの4段階(「利用しやすい水質の確保」はA～Cランクの3段階)の評価ランクを決めた上で、まず調査回ごとに最も低い項目別評価ランクを、その地点のその調査時の総合評価ランクとした。次に、1年間の調査時の総合評価ランクのうち、「人と河川の豊かなふれあいの確保」では最頻出のランク、「豊かな生態系の確保」では最低ランク、「利用しやすい水質の確保」では95%値に該当するランクを、その地点の年間の総合評価ランクとした。評価方法の詳細は「今後の河川水質管理の指標について(案)」参照。

# 平成30年「人と河川の豊かなふれあいの確保」調査結果

凡例	ランク	ランクのイメージ	説明	地点数*	割合
●	A		顔を川の水につけやすい (泳ぎたいと思うきれいな川)	71 (49)	25%
●	B		川の中に入って遊びやすい	112 (73)	40%
●	C		川の中には入れないが、川に近づくことができる	86 (53)	31%
●	D		川の水に魅力がなく、川に近づきにくい	11 (6)	4%
計				280 (181)	100%

※ ( )内は、住民と協働で調査を実施した地点  
 四捨五入による端数処理のため内訳の合計が100%にならないことがある。



※あくまでも水質に関する指標により評価した結果であり、流れの状態や、川岸・川底の形状などの安全性については考慮していません。  
 ※水浴場水質判定基準（環境省）における油膜の有無やCOD等の評価項目、その他の有害物質等による評価は行っていません。

- 凡例
- A 顔を川の水につけやすい(泳ぎたいと思うきれいな川)
  - B 川の中に入って遊びやすい
  - C 川の中には入れないが、川に近づくことができる
  - D 川の水に魅力がなく、川に近づきにくい

【人と河川の豊かなふれあいの確保】

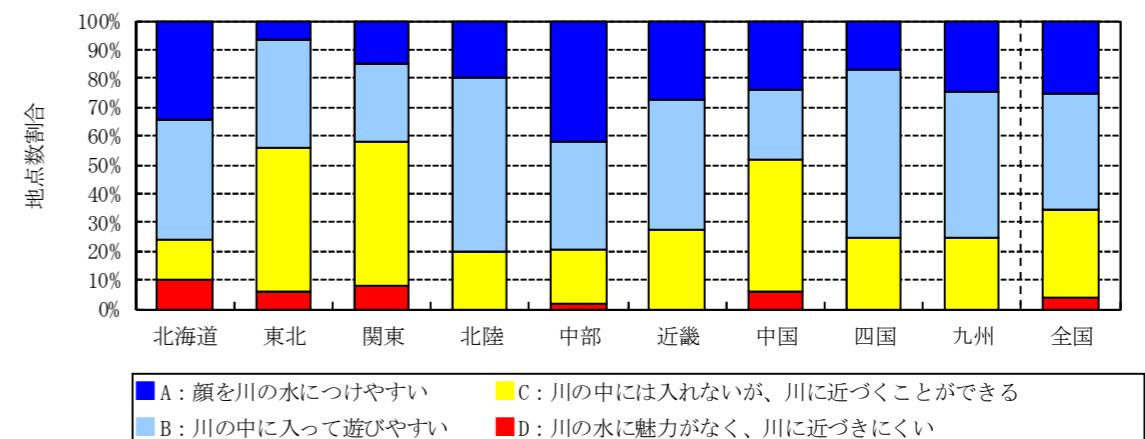


図-23(1) 平成30年「人と河川の豊かなふれあいの確保」調査結果

# 平成30年「豊かな生態系の確保」調査結果

凡例	ランク	説明	地点数※	割合
●	A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	165 (107)	69%
●	B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	60 (42)	25%
●	C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない	11 (6)	5%
●	D	生物が生息・生育・繁殖しにくい	3 (3)	1%
計			239 (158)	100%

※ ( )内は、住民と協働で調査を実施した地点  
 四捨五入による端数処理のため内訳の合計が100%にならないことがある。

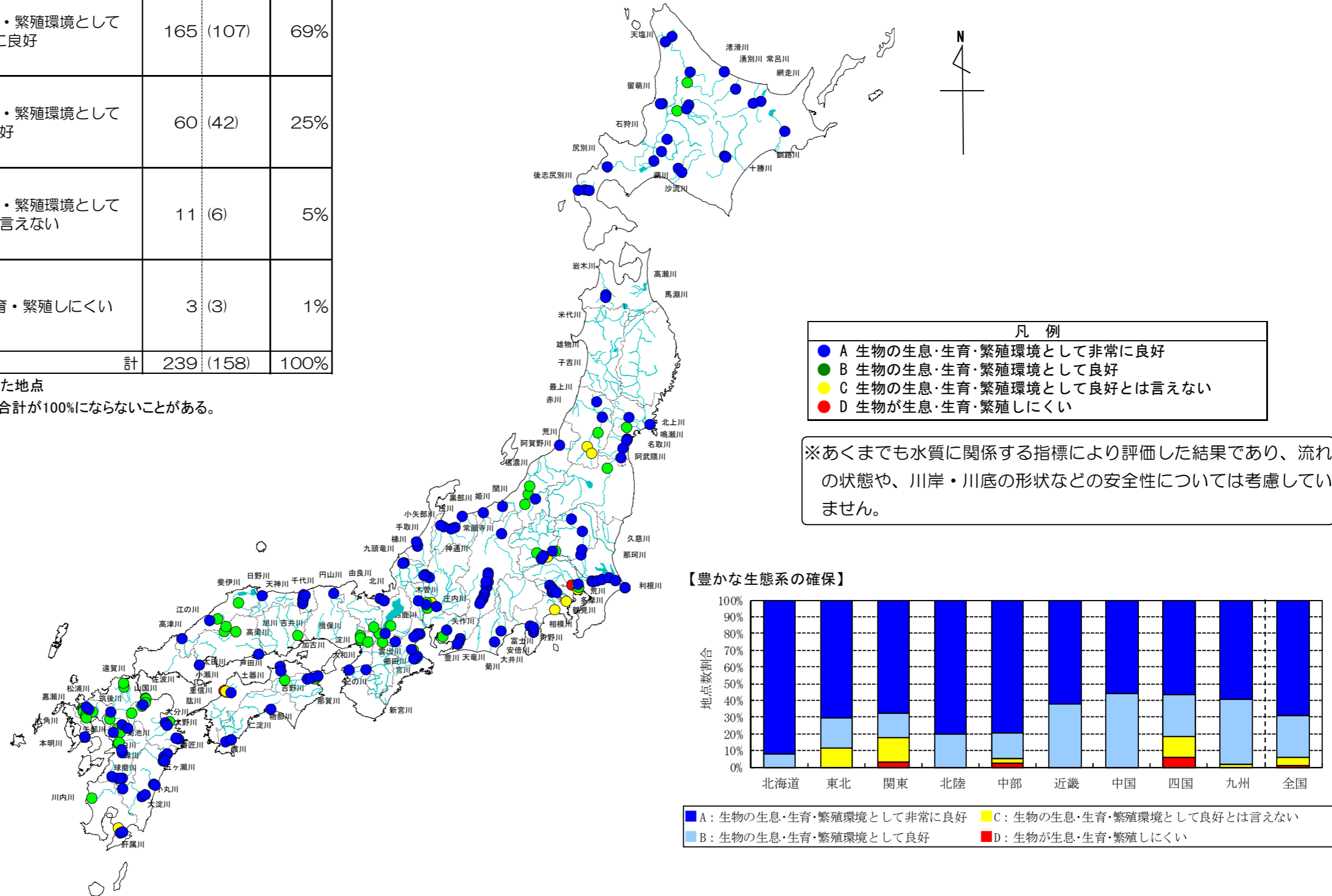


図-23(2) 平成30年「豊かな生態系の確保」調査結果

# 平成30年「利用しやすい水質の確保」調査結果

凡例	ランク	説明	地点数	割合※
●	A	より利用しやすい	85	75%
●	B	利用しやすい	12	11%
●	C	利用するためには高度な処理が必要	16	14%
計			113	100%

四捨五入による端数処理のため内訳の合計が100%にならないことがある。

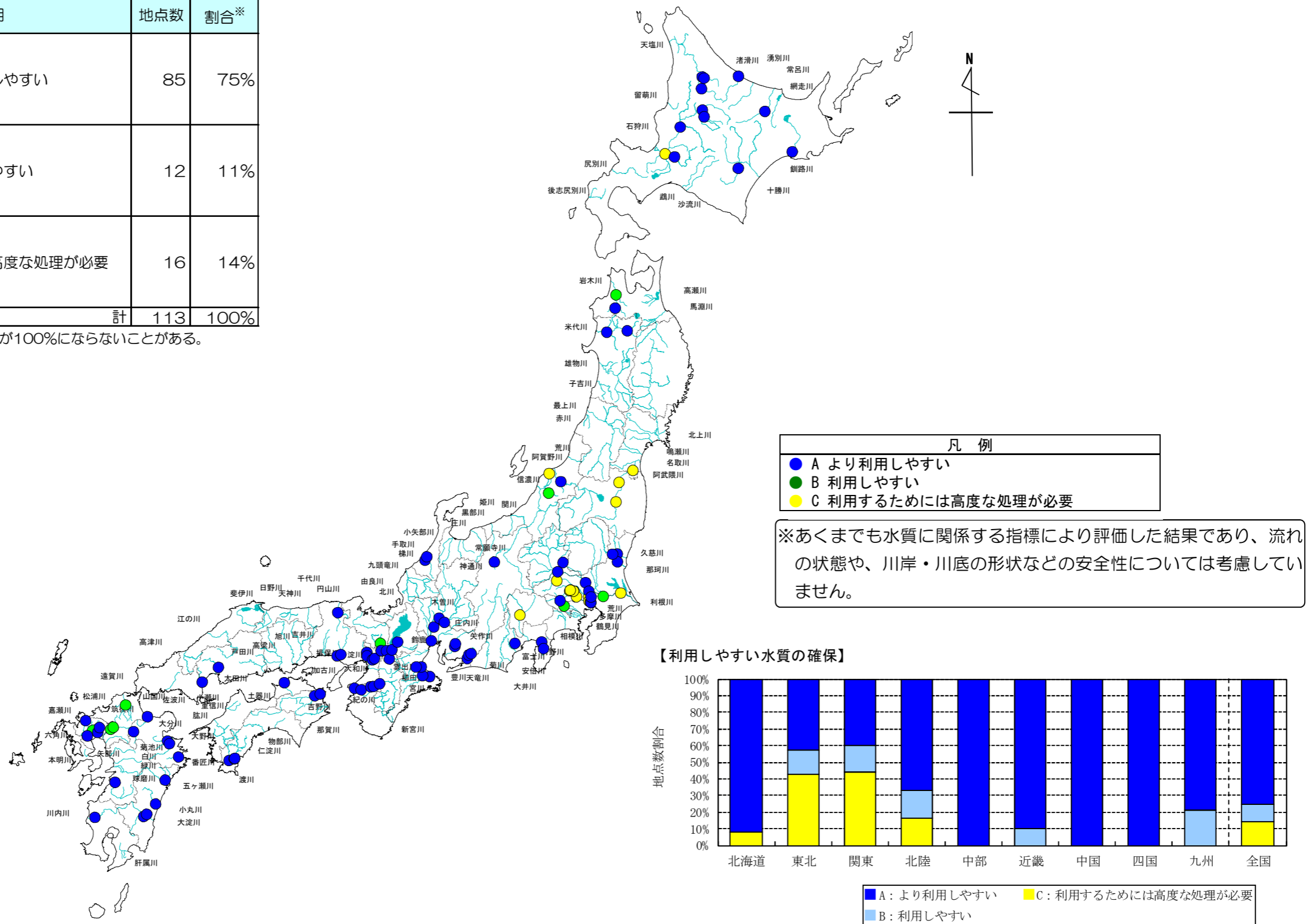


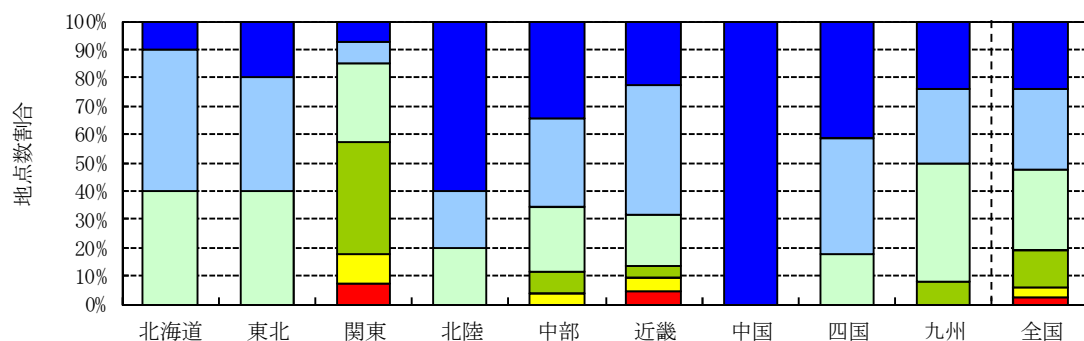
図-23(3) 平成30年「利用しやすい水質の確保」調査結果

第二章 河川の水質現況

4. 住民参加による水質調査

(1) 今後の河川水質管理の指標

【T-N】



【T-P】

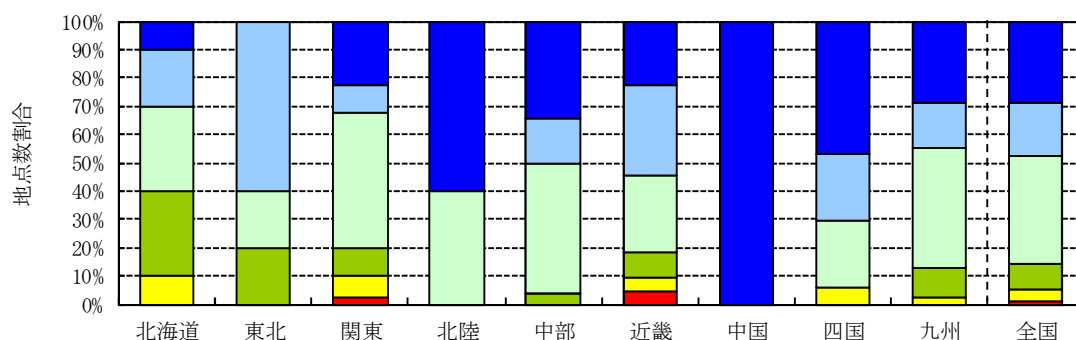


図-24 年間の地点平均値の濃度範囲別割合

(下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保)

※今後の河川水質管理の指標の調査として測定された調査データのみを対象。

**コラム：川の魅力アップ ～今後の河川水質管理の指標での評価結果より～**

今後の河川水質管理の指標による評価は、平成17年より毎年、数多くの調査地点で行われてきました。

10年前と現在の評価を比較すると、評価が良くなっている調査地点も多数あります(表①)。「人と河川の豊かなふれあいの確保」では、平成20年と比べて2ランクアップした調査地点が全国で6地点ありました(図①)。

今後も引き続き調査を続けることで、調査地点の水質の状況が経年的に比較できます。結果を活用して評価ランクが下がってしまっている原因を確認できれば、更なる水質改善に繋がると考えられます。

※表①は、「人と河川の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」「利用しやすい水質の確保」のいずれかの視点について平成20年と平成30年に同じ調査地点で実施されているものを対象に整理しました。

※ランク変動は、年間の総合評価ランクを数値(A=4、B=3、C=2、D=1)に置き換えて平成20年からの変動を表しています(例：H20年D→H30年Aの場合は3ランクアップ)。

※表①の凡例は、下図の通りです。

【凡例】
年間評価ランク：■Aランク、■Bランク、■Cランク、■Dランク
ランク変動：(ランクアップ) ↑3、↑2、↑1
:( 変動なし ) ⇄0
:(ランクダウン) ↓-1、↓-2、↓-3

第二章 河川の水質現況

4. 住民参加による水質調査

(1) 今後の河川水質管理の指標

表① 年間評価ランクの変動状況一覧表 (1/3)

地整局 開発局	水系名	河川名	地点名	年間評価ランク						ランク変動			
				ふれあい		生態系		利用		ふれあい	生態系	利用	
				H20年	H30年	H20年	H30年	H20年	H30年				
北海道	後志利別川	後志利別川	今金橋	B	A	B	A	-	-	↑	1	1	-
			沙流川	D	A	A	A	-	-	↑	3	0	-
	十勝川	札内川	札内橋	B	A	A	A	-	-	↑	1	0	-
			南帯橋	-	-	-	-	A	A	-	-	-	0
		十勝川	十勝大橋	B	B	A	A	-	-	↑	0	0	-
	渚滑川	渚滑川	ウツツ橋	A	A	A	A	A	A	↑	0	0	0
	常呂川	常呂川	金比羅橋	-	-	-	-	A	A	-	-	-	0
			若松橋	B	B	A	A	-	-	↑	0	0	-
	石狩川	漁川	中島橋下流	B	A	A	A	-	-	↑	1	0	-
			空知川	-	-	-	-	A	A	-	-	-	0
			空知大橋下流	B	A	A	-	-	-	↑	1	-	-
		石狩川	永山橋	D	C	A	A	-	A	↑	1	0	-
			納内橋上流	B	C	B	B	-	-	↑	-1	0	-
		豊平川	幌平橋下流	B	D	A	-	-	-	↓	-2	-	-
		夕張川	馬追橋	-	-	-	-	A	A	-	-	-	0
	天塩川	天塩川	土別橋上流	B	B	B	B	-	-	↑	0	0	-
			中土別橋	-	-	-	-	A	A	-	-	-	0
			名寄大橋	-	-	-	-	B	A	-	-	-	1
		名寄川	日進橋上流	A	B	A	A	-	-	↑	-1	0	-
	鶴川	鶴川	徳別橋	C	A	A	A	-	-	↑	2	0	-
網走川	網走川	大正橋	C	B	A	A	-	-	↑	1	0	-	
湧別川	湧別川	遠軽橋	B	A	A	A	-	-	↑	1	0	-	
東北	阿武隈川	阿武隈川	阿久津	-	-	-	-	B	C	-	-	-	-1
			丸森	C	-	A	-	C	C	-	-	-	0
			黒岩	-	-	-	-	C	C	-	-	-	0
	岩木川	岩木川	乾橋	-	-	-	-	C	B	-	-	-	1
			上岩木橋	C	-	A	-	A	A	-	-	-	0
	馬淵川	馬淵川	水辺の楽校	D	C	A	-	-	-	↑	1	-	-
	米代川	米代川	十二所	-	-	-	-	A	A	-	-	-	0
			二ツ井	-	-	-	-	A	A	-	-	-	0
	鳴瀬川	吉田川	高田橋	A	C	A	B	-	-	↓	-2	-1	-
	関東	久慈川	久慈川	富岡橋	A	A	A	-	A	A	-	0	-
山田川				C	C	B	-	-	-	↑	0	-	-
荒川		荒川	久下橋	C	B	A	-	-	-	↑	1	-	-
			都幾川	B	B	B	-	-	-	↑	0	-	-
相模川		相模川	神川橋	C	B	A	C	B	-	↑	-1	-2	
多摩川		多摩川	永田橋	A	B	A	A	A	-	↑	-1	0	
鶴見川		鶴見川	亀の子橋	C	C	C	C	C	-	↑	0	0	
那珂川		那珂川	下国井	-	-	-	-	A	A	-	-	-	0
富士川		富士川	富士橋	-	-	-	-	B	C	-	-	-	-1
利根川		鳥川	岩倉橋	C	C	-	B	-	-	↑	0	-	-
	高松		C	C	-	-	-	-	↑	0	-	-	
	神流川	神流川橋	B	B	-	A	A	-	↑	0	-	-	
		藤武橋	B	C	-	A	B	-	↑	-1	-	-	
	渡良瀬川	赤岩用水取水口	B	-	A	-	A	A	-	-	-	0	
利根川	水郷大橋	C	-	A	-	A	C	-	-	-	-2		
北陸	黒部川	黒部川	下黒部橋	C	B	A	A	-	-	↑	1	0	-
			庄川	B	A	A	A	-	-	↑	1	0	-
	信濃川	魚野川	小出橋	B	C	A	A	-	-	↑	-1	0	-
			信濃川	D	C	A	B	-	-	↑	1	-1	-
			十日町橋	B	C	A	B	-	-	↑	-1	-1	
			長生橋	B	B	B	B	-	-	↑	0	0	
		千曲川	屋島橋	B	B	B	A	-	-	↑	0	1	
神通川	神通川	神通大橋	C	B	A	A	-	-	↑	1	0		
中部	雲出川	雲出川	雲出橋	-	C	-	-	A	A	-	-	-	0
			宮川	A	A	A	-	-	-	↑	0	-	-
	榑田川	榑田川	度会橋	B	A	A	-	A	A	-	1	-	0
			榑田橋	B	B	A	A	-	-	↑	0	0	-
	狩野川	黄瀬川	両郡橋	B	A	B	D	A	-	↑	1	-2	-
			黄瀬川橋	C	B	A	A	-	-	↑	1	0	-
			黒瀬橋	B	-	A	A	-	-	↑	-1	0	-
		狩野川	千歳橋	C	B	A	A	-	-	↑	1	0	
			大仁橋	B	B	A	A	-	A	-	0	0	
	天竜川	虻川	新虻川橋	B	A	A	A	-	-	↑	1	0	-
			横川川	B	A	A	A	-	-	↑	1	0	-
		松川	B	A	A	A	-	-	↑	1	0	-	
		前沢川	新前沢橋	C	A	A	A	-	-	↑	2	0	-
		天竜川	伊那路橋	B	A	A	A	-	-	↑	1	0	-
		天の中川橋	C	A	A	A	-	-	↑	2	0	-	
	天竜橋	B	D	A	A	-	-	↓	-2	0	-		



第二章 河川の水質現況  
 4. 住民参加による水質調査  
 (1) 今後の河川水質管理の指標

表① 年間評価ランクの変動状況一覧表 (2/3)

地整局 開発局	水系名	河川名	地点名	年間評価ランク						ランク変動			
				ふれあい		生態系		利用		ふれあい	生態系	利用	
				H20年	H30年	H20年	H30年	H20年	H30年				
中部	天竜川	天竜川	平成大橋	B	A	B	A	-	-	1	1	-	
			明神橋	B	A	A	A	-	-	1	0	-	
	豊川	豊川	吉田大橋	A	B	B	B	-	-	-1	0	-	
			江島橋	C	-	B	-	A	A	-	-	0	
			石田	-	-	-	-	A	A	-	-	0	
			当古橋	C	B	B	A	A	A	1	1	0	
	木曾川	長良川	伊勢大橋	-	-	-	-	C	A	-	-	2	
			藍川橋	B	A	A	C	A	A	1	2	-2	
		木曾川	大山橋	C	A	A	A	A	A	2	0	0	
	矢作川	矢作川	濃尾大橋	-	-	-	-	A	A	-	-	0	
			岩津天神橋	B	C	B	A	A	A	-1	1	0	
			明治用水頭首工	B	-	B	-	A	A	-	-	0	
	鈴鹿川	安楽川	和泉橋	-	B	B	A	-	-	-	1	-	
		鈴鹿川	庄野橋	B	B	C	B	-	-	0	1	-	
	近畿	田山川	田山川	府市場	B	-	B	-	A	A	-	-	0
				河内橋	C	C	C	-	-	-	0	-	-
		大和川	大和川	浅香	C	C	C	-	-	-	0	-	-
				高塚橋	B	B	B	A	-	-	0	1	-
北川		北川	三宅橋	B	B	A	A	-	-	0	0	-	
			宇治川	C	-	B	-	A	A	-	-	0	
淀川		宇治川	宇治川御幸橋	-	-	-	-	B	A	-	-	1	
			宮前橋	-	-	-	-	B	B	-	-	0	
		桂川	渡月橋	C	B	B	B	B	B	1	0	0	
			瀬田川	C	B	B	A	B	A	1	1	1	
		猪名川	猪名川	こんにやく橋	B	B	B	B	-	-	0	0	-
				銀橋	-	-	-	-	A	A	-	-	0
				桑津橋	C	B	B	B	-	-	1	0	-
		木津川	木津川	軍行橋	-	-	-	-	A	A	-	-	0
				加茂恭仁大橋	-	-	-	-	C	A	-	-	2
		野洲川	野洲川	恭仁大橋	A	C	B	B	-	-	-2	0	-
木津川御幸橋				-	-	-	-	C	A	-	-	2	
野洲川大橋				B	C	A	B	B	A	-1	-1	1	
淀川	B			C	C	B	B	-	-	-1	1	-	
中国	芦田川	芦田川	山手橋	B	C	B	-	B	-	-1	-	-	
			小水呑橋	B	D	A	A	B	-	-2	0	-	
			中津原取水堰	B	C	B	-	A	-	-1	-	-	
			府中新橋	A	C	A	-	A	-	-2	-	-	
			府中大渡橋	A	C	B	-	-	-	-2	-	-	
			掛の橋	C	D	C	-	C	-	-1	-	-	
			出原橋	B	C	C	-	B	-	-1	-	-	
			鶴ヶ橋	A	C	C	-	C	-	-2	-	-	
	高屋川	高屋川	中須大橋	B	C	A	-	-	-	-1	-	-	
			観音橋	C	C	B	-	B	-	0	-	-	
	吉井川	金剛川	宮橋	B	C	B	B	A	-	-1	0	-	
			江の川	B	A	B	A	A	-	-1	1	-	
	小瀬川	小瀬川	兩國橋	A	B	A	A	A	A	-1	0	0	
			太田川	C	B	B	-	A	A	1	-	0	
	四国	吉野川	吉野川	高瀬橋	B	-	-	-	A	A	-	-	0
				旧吉野川	B	-	-	-	A	A	-	-	0
		重信川	重信川	拝志大橋	B	B	C	A	-	-	0	2	-
				後川	B	A	A	A	-	A	1	0	-
渡川		渡川	四万十川	A	A	A	B	-	A	0	-1	-	
			中筋川	D	C	B	A	-	A	1	1	-	
土器川		土器川	祓川橋	B	B	B	A	-	-	0	1	-	
			遠賀川	C	C	D	B	-	-	0	2	-	
九州		遠賀川	遠賀川	溝掘	-	-	-	-	B	A	-	-	1
				嘉瀬川	C	C	C	C	-	-	0	0	-
	肝属川	肝属川	鹿屋小学校前	C	C	C	C	-	-	0	0	-	
			菊池川	C	B	B	B	-	-	1	0	-	
	球磨川	球磨川	横石	-	-	-	-	A	A	-	-	0	
			中川原公園	D	B	A	A	-	-	2	0	-	
	小丸川	小丸川	高城橋	A	A	A	A	-	A	0	0	-	
			松浦川	B	A	B	A	-	-	1	1	-	
	川内川	川内川	久里橋	-	-	-	-	A	A	-	-	0	
			斧洲	-	-	-	-	A	A	-	-	0	
	大淀川	大淀川	本庄橋	A	B	A	A	A	A	-1	0	0	
			筑後川	B	B	B	B	-	-	0	0	-	
	白川	白川	台霧の瀬	C	C	A	B	-	-	0	-1	-	
			子飼橋	C	C	A	B	-	-	0	-1	-	
	番匠川	番匠川	代継橋	A	B	-	A	-	-	-1	-	-	
			上岡	A	B	-	A	-	-	-1	-	-	
	池船スポーツ公園	池船スポーツ公園	池船スポーツ公園	B	C	-	A	-	-	-1	-	-	

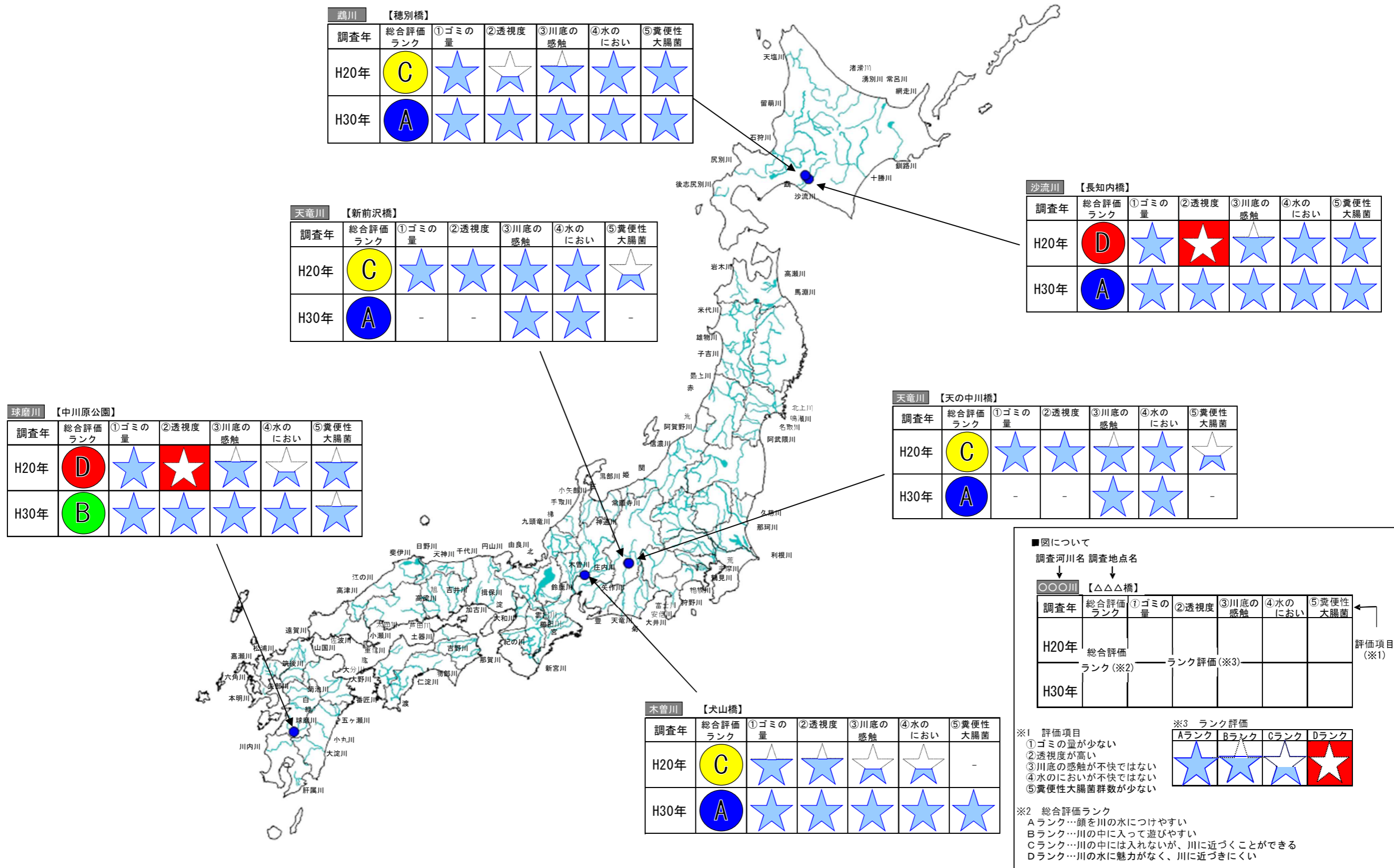
第二章 河川の水質現況

4. 住民参加による水質調査

(1) 今後の河川水質管理の指標

表① 年間評価ランクの変動状況一覧表 (3/3)

地整局 開発局	水系名	河川名	地点名	年間評価ランク						ランク変動				
				ふれあい		生態系		利用		ふれあい	生態系	利用		
				H20年	H30年	H20年	H30年	H20年	H30年					
九州	番匠川	番匠川	番匠公園	B	B	A	A	A	-	→	0	→	0	-
	矢部川	矢部川	船小屋	B	B	A	B	-	-	→	0	→	-1	-
	緑川	緑川	中甲橋	B	B	A	A	-	-	→	0	→	0	-
			津志田	A	B	A	A	-	-	→	-1	→	0	-
	六角川	牛津川	妙見橋	B	C	B	B	-	-	→	-1	→	0	-



図① 「人と河川の豊かなふれあいの確保」評価ランクの平成20年から平成30年の変化（2ランクアップの調査地点）

平成30年に実施した今後の湖沼水質管理の指標による調査結果を基に、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」「利用しやすい水質の確保」の3つの視点ごとに、全国の調査地点の総合的な評価<sup>注17</sup>を行い、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」の年間の総合評価ランクを全国マップ(図-25(1)～(3))に示した。

年間の総合評価ランクが最も高いAランクの地点は、表-30に示すように、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」の視点については約25%(4地点/16地点)、「豊かな生態系の確保」の視点については水質(底層DO、NH<sub>4</sub>-N<sup>注18</sup>)による評価では約69%(9地点/13地点)、生物による評価では0地点、「利用しやすい水質の確保」の視点については約25%(2地点/8地点)となった。

一方、年間の総合評価ランクが最も低いDランクの地点は、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」の視点については約6%(1地点/16地点)、「豊かな生態系の確保」の視点については水質(底層DO、NH<sub>4</sub>-N)による評価では約15%(2地点/13地点)、生物による評価<sup>注19</sup>では0地点となった。また、「利用しやすい水質の確保」では評価ランクが最も低いCランクの地点は、約75%(6地点/8地点)となった。

表-30 今後の湖沼水質管理の指標による年間の総合評価ランク別の地点数

	人と河川の豊かなふれあい		豊かな生態系				利用しやすい水質	
	地点数	割合	水質		生物		地点数	割合
			地点数	割合	地点数	割合		
Aランク	4 (0)	25%	9 (5)	69%	0 (0)	0%	2	25%
Bランク	2 (1)	13%	2 (2)	15%	2 (2)	15%	0	0%
Cランク	9 (6)	56%	0 (0)	0%	1 (1)	8%	6	75%
Dランク	1 (1)	6%	2 (0)	15%	0 (0)	0%		
計	16 (8)	100%	13 (7)	100%	3 (3)	100%	8	100%

※ () 内は、住民と協働で調査した地点数。四捨五入による端数処理のため内訳の合計が100%にならないことがある。

注17 評価項目ごとにA～Dランクの4段階(「利用しやすい水質の確保」はA～Cランクの3段階)の評価ランクを決めた上で、まず調査回ごとに最も低い項目別評価ランクを、その地点のその調査時の総合評価ランクとする。ただし、「豊かな生態系の確保」については、生物の生息は各湖沼で設定される指標項目であることから、その項目を除いた底層DO、NH<sub>4</sub>-Nで評価することを基本とし、生物の生息については、単独で評価している。1年間の調査時の総合評価ランクのうち、「人と河川の豊かなふれあいの確保」では最頻ランク、「豊かな生態系の確保」では、底層DO、NH<sub>4</sub>-Nによる評価は最低ランク、生物の生息は、最高ランクをその地点の年間の総合評価ランクとする。「利用しやすい水質の確保」では95%値に該当するランクを、その地点の年間の総合評価ランクとする。評価方法の詳細は「今後の湖沼水質管理の指標について(案)」参照。

注18 NH<sub>4</sub>-Nは、底層DOと同一の調査地点(採水位置)での測定値で評価している。





注19 網走湖では「ヤマトシジミ」、佐鳴湖では「水辺の植生」を指標とした評価をしている。

## 第二章 河川の水質現況

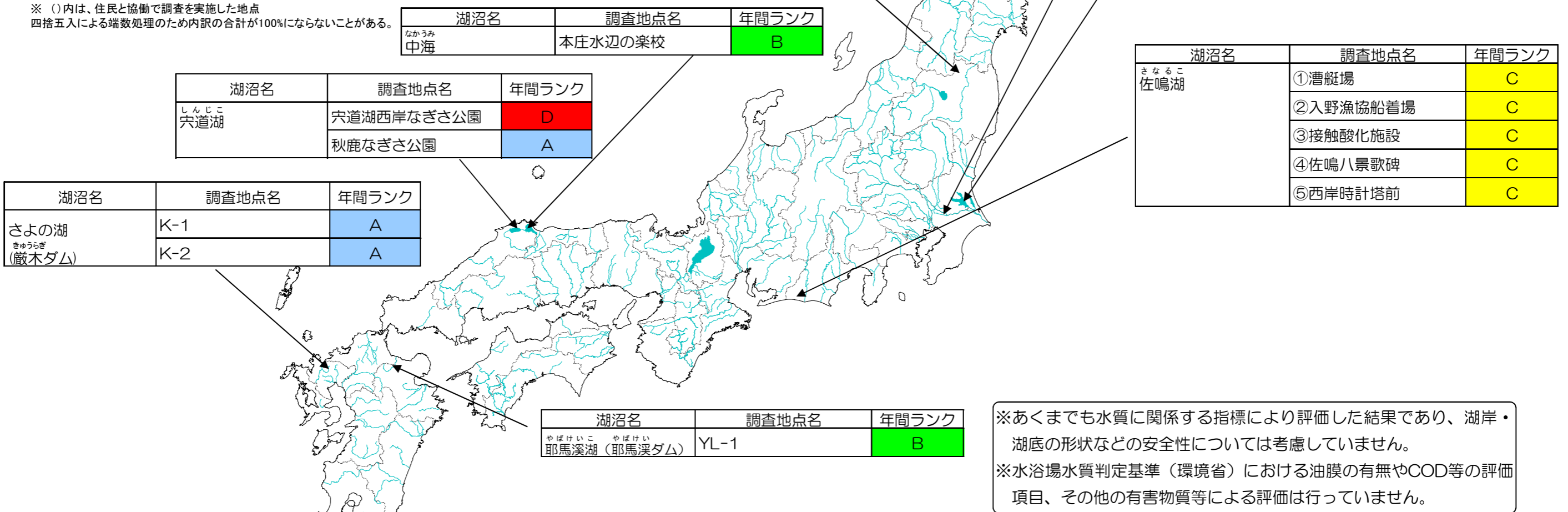
### 4. 住民参加による水質調査

#### (1) 今後の河川水質管理の指標

「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」の視点では、評価項目、評価ランク及び評価レベルを定めていないことからT-N、T-Pの年間の地点平均値の濃度範囲を図-26に示す。

ランク	ランクのイメージ	説明	地点数*	割合
A		顔を湖沼の水につけやすい (泳ぎたいと思うきれいな湖沼)	4 (0)	25%
B		湖沼の中に入って遊びやすい	2 (1)	13%
C		湖沼の中には入れないが、湖沼に近づくことができる	9 (6)	56%
D		湖沼の水に魅力がなく、湖沼に近づきにくい	1 (1)	6%
計			16 (8)	100%

※ ( )内は、住民と協働で調査を実施した地点  
 四捨五入による端数処理のため内訳の合計が100%にならないことがある。



※あくまでも水質に関する指標により評価した結果であり、湖岸・湖底の形状などの安全性については考慮していません。  
 ※水浴場水質判定基準（環境省）における油膜の有無やCOD等の評価項目、その他の有害物質等による評価は行っていません。

図-25(1) 今後の湖沼水質管理の指標による「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」調査結果

第二章 河川の水質現況  
 4. 住民参加による水質調査  
 (1) 今後の河川水質管理の指標

ランク	説明	水質		生物	
		地点数*	割合	地点数*	割合
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	9 (5)	69%	0 (0)	0%
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	2 (2)	15%	2 (2)	67%
C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない	0 (0)	0%	1 (1)	33%
D	生物の生息・生育・繁殖環境しにくい	2 (0)	15%	0 (0)	0%
計		13 (7)	100%	3 (3)	100%

※ ( )内は、住民と協働で調査を実施した地点  
 四捨五入による端数処理のため内訳の合計が100%にならないことがある。

湖沼名	調査地点名	年間ランク	
		水質	生物
あばしりこ 網走湖	女満別キャンプ場	B	C

湖沼名	調査地点名	年間ランク	
		水質	生物
すりかみかわ 摺上川ダム	基準地点	A	-

湖沼名	調査地点名	年間ランク	
		水質	生物
さよの湖 きゆうらぎ (厳木ダム)	K-1	D	-
	K-2	A	-

湖沼名	調査地点名	年間ランク	
		水質	生物
かすみがうら 霞ヶ浦 (西浦)	にしうら 沖宿	A	-

湖沼名	調査地点名	年間ランク	
		水質	生物
おおつるこ 大鶴湖	基準点1	A	-
	基準点3	D	-

湖沼名	調査地点名	年間ランク	
		水質	生物
きなるこ 佐鳴湖	①漕艇場	A	-
	②入野漁協船着場	A	B
	③接触酸化施設	A	-
	④佐鳴八景歌碑	A	-
	⑤西岸時計塔前	A	B

湖沼名	調査地点名	年間ランク	
		水質	生物
やばけいこ 耶馬溪湖	YL-1	B	-

※あくまでも水質に関する指標により評価した結果であり、湖岸・湖底の形状などの安全性については考慮していません。  
 ※水浴場水質判定基準（環境省）における油膜の有無やCOD等の評価項目、その他の有害物質等による評価は行っていません。

図-25(2) 今後の湖沼水質管理の指標による「豊かな生態系の確保」調査結果



第二章 河川の水質現況  
 4. 住民参加による水質調査  
 (1) 今後の河川水質管理の指標

ランク	説明	地点数	割合
A	より利用しやすい	2	25%
B	利用しやすい	0	0%
C	利用するためには高度な処理が必要	6	75%
計		8	100%

四捨五入による端数処理のため内訳の合計が100%にならないことがある。

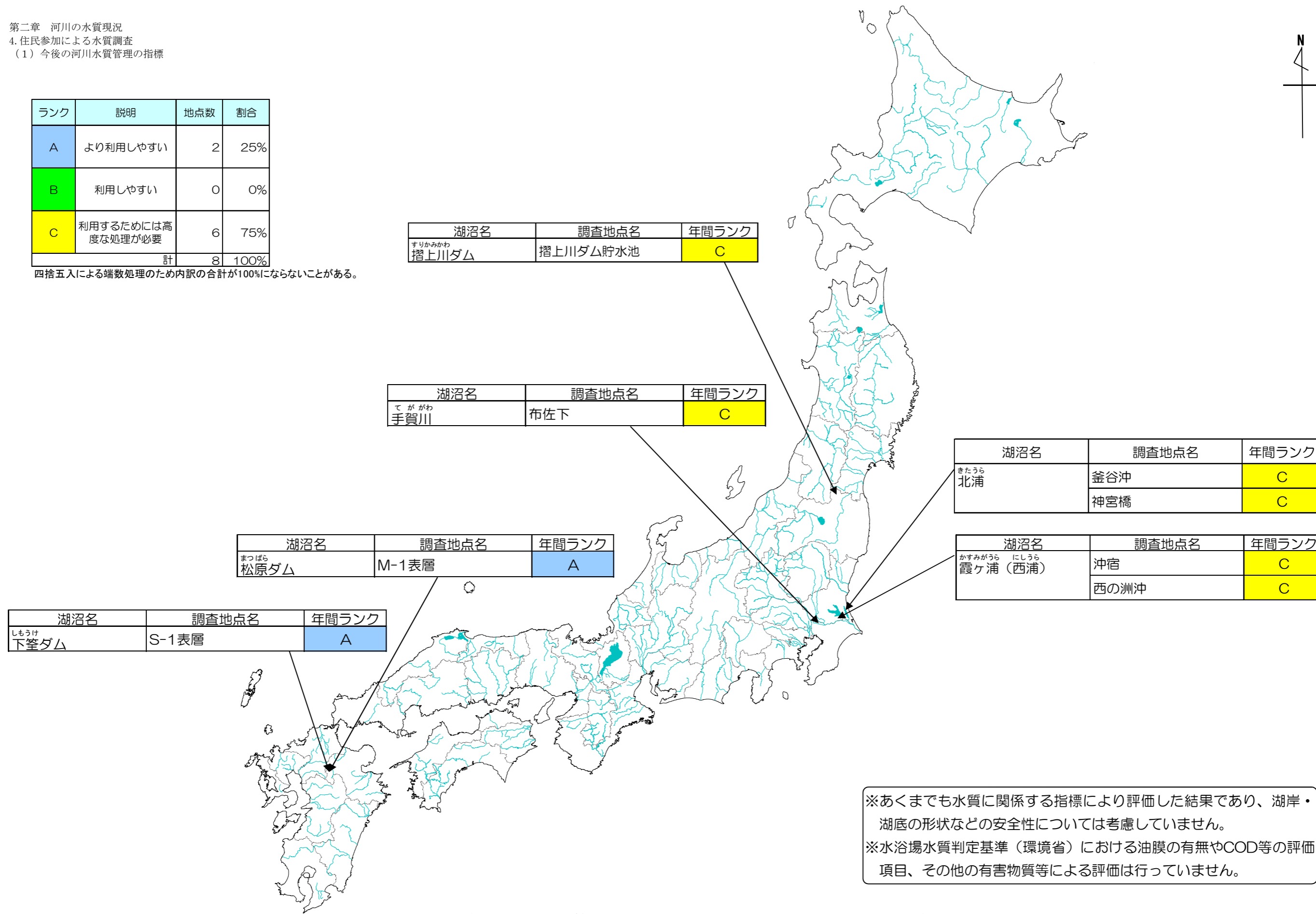


図-25(3) 今後の湖沼水質管理の指標による「利用しやすい水質の確保」調査結果



第二章 河川の水質現況

4. 住民参加による水質調査

(1) 今後の河川水質管理の指標

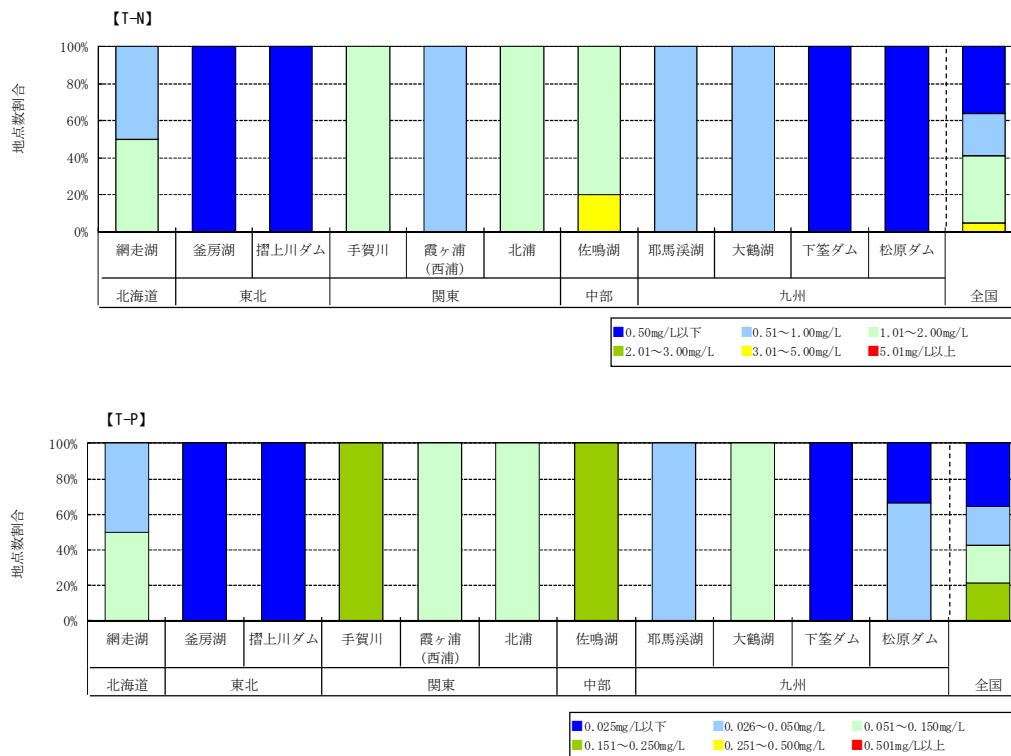


図-26 年間の地点平均値の濃度範囲別割合  
(下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保)

※今後の湖沼水質管理の指標の調査としてT-N、T-Pが同時に測定された調査データのみを対象とした。